

## 滋賀県立高等専門学校

# 校舎等施設概要 (基本設計段階)

# 1. 県立高専のキャンパス整備に係る基本的考え方（キーコンセプト）

## 立地上の条件

- 敷地形状  
県有地は縦長の形状のため、コンパクトな施設配置が求められるほか、開発においては、雨水排水のための浸透池の設置が必要
- 自然環境の存置  
開発行為上の条件として、また、地域住民等による環境保全活動の場として、用地南側の森林を存置する必要
- 近隣住宅地への配慮  
騒音、振動、学校からの視線や通学動線などの周辺住民の懸念に対しての配慮が必要
- その他周辺整備  
隣接国有地へのアクセス通路を用地内に整備する必要

## 教育上の条件

- 実践型学習の実施  
グループワーク等を多く実施することを前提とした施設が必要
- 県内唯一の高専に求められる専門性  
県内唯一の高専として専門性の高い教育の実施を可能とする施設が必要
- 地域との連携・共創関係の構築  
教育活動において積極的に地域と関係を持つとともに、課外活動においても地域との連携・共創関係構築を意識した施設が必要

## 基本構想における方針

- 「近江富士」三上山が見下ろす旧野洲川北流の緑あふれる地に、最新の設備や機器を備えた、真新しい校舎を整備
- 天井川であった野洲川の洪水被害と対峙してきた先人の努力の歴史を紡ぐ「防災」の観点、自然と共生していく「環境保全」の観点を埋め込みながら、地域に溶け込み、地域から誇りと愛着を持たれるキャンパスを整備

## 校長予定者による「3方針」

- ① 現代的
- ② 実質的
- ③ コンパクト

上記条件および方針を踏まえ、各施設・諸室を設計

## 2. 整備概要

### (1) 立地場所（野洲市市三宅地先）

- JR野洲駅から直線距離約1.3km北西に位置（徒歩約17分）



「通える高専」

### (2) 用地面積

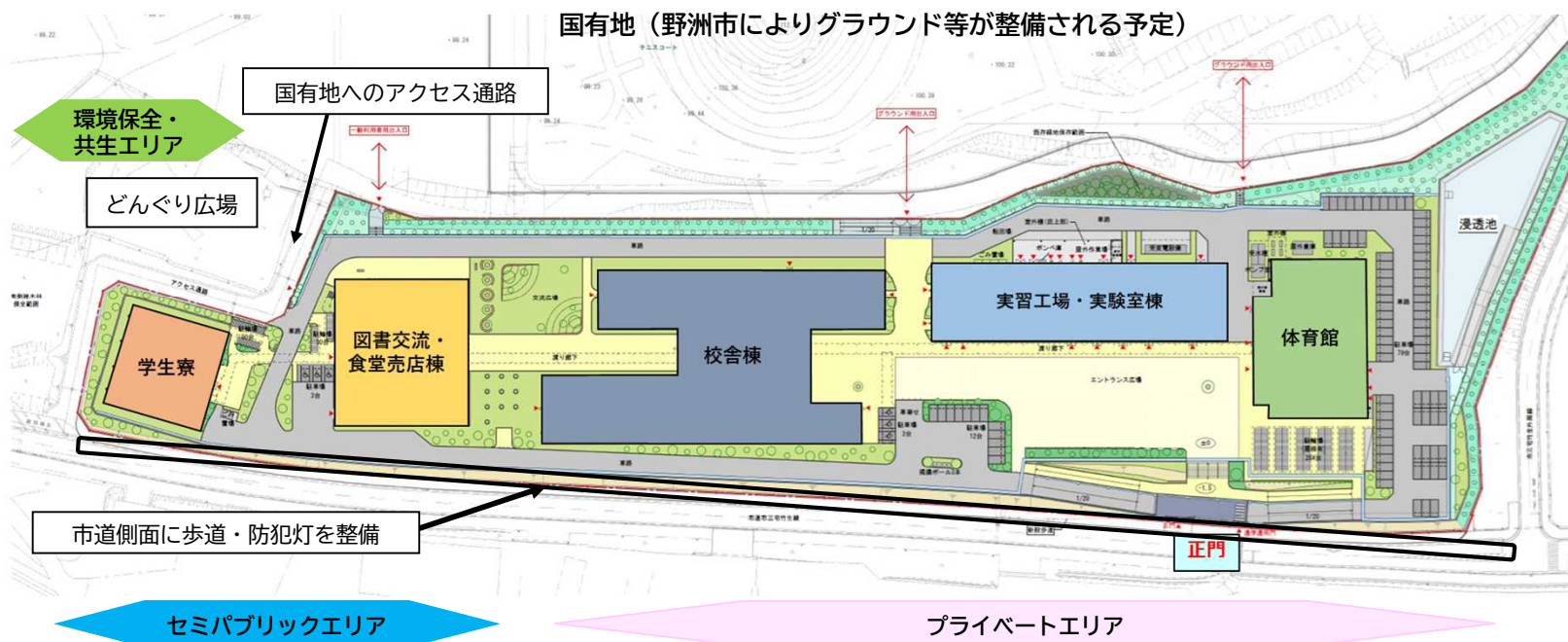
- 総面積約49,500㎡のうち、開発を行う区域は36,566㎡

|   | 項目         | 面積      | 備考              |
|---|------------|---------|-----------------|
| 1 | 施設整備区画     | 36,566㎡ |                 |
| 2 | 環境保全・共生エリア | 11,634㎡ | 現状の森林を残置        |
| 3 | アクセス通路     | 1,351㎡  | 隣接国有地へのアクセス用通路※ |

※施設整備区画と環境保全・共生エリアの間に配置(上面構造は野洲市が整備)  
災害時は隣接国有地に集合する緊急車両等が通行(平時は歩行者・自転車専用)

- ・企業、大学、公設研究機関が周辺に集積  
⇒ **企業等との連携・共創、異分野の学び・研究との共創を構築**
- ・隣接国有地に、国交省・野洲市がMIZBEステーション（県立高専が使用するグラウンドを含む）を整備予定  
⇒ **防災・減災、自然環境保全など、国・市とも連携した学びを実現**

### (3) 配置計画



### キャンパスのコンセプト

地域に溶け込み、地域から誇りと愛着を持たれるキャンパス

現代的・実質的・コンパクト

## (4)各施設の構造および規模

|   | 施設         | 構造            | 階数           | 延床面積     |
|---|------------|---------------|--------------|----------|
| 1 | 校舎棟        | 鉄骨造           | 3階           | 約10,900㎡ |
| 2 | 図書交流・食堂売店棟 | 鉄骨造           | 2階           | 約2,400㎡  |
| 3 | 学生寮        | 鉄筋<br>コンクリート造 | 2階           | 約1,400㎡  |
| 4 | 実習工場・実験室棟  | 鉄骨造           | 1階<br>(一部2階) | 約2,200㎡  |
| 5 | 体育館        | 鉄骨造           | 1階           | 約1,600㎡  |

## (5)設計上の主なポイント

### ①立地を生かした学校施設

- 「近江富士」として親しまれる三上山、周辺森林、野洲川を望む環境において、校舎棟の教室や図書交流・食堂売店棟のテラスから、三上山や野洲川を眺望

### ②学習環境

- 校舎棟中央に、学生や教員が集い、語らい、共創を育む場である象徴的な場所として、吹抜けの大空間である「交流スペース」を設置
- 実践的学習を行うため、4つの専門コースそれぞれにグループワークが可能な「コモンスペース」を配置するほか、少人数教育や課外活動なども可能な「多目的室」を複数配置
- 学生が休憩時間や放課後に自由に集まり、ディスカッションを行ったり、食事がとれるフリースペースや、静かに学習できる自習スペースを配置

## ③地域から誇りと愛着を持たれるキャンパス

- 図書交流施設は、魅力的な施設となるよう、眺望のよいテラスや緑の広場を配し、学びや実践の場として学生や教員と企業や地域が共同研究や発表などを行う拠点として利用

## ④環境への配慮

- 校舎棟、図書交流・食堂売店棟、体育館：ZEB Ready達成見込み  
学生寮：ZEH-M Orientedを目指す

※ZEB-Ready:

基準一次エネルギー消費量に対し、設計一次エネルギー消費量が50%以上削減

(出典:滋賀県CO2ネットゼロ社会づくり推進計画)

※ZEH-M Oriented:

共用部を含む当該住棟全体で、基準一次エネルギー消費量から20%以上の一次エネルギー消費量削減(出典:資源エネルギー庁「ZEHの定義(改訂版)<集合住宅>」)

- 校地内の各所で樹木や芝張り等の植栽を行い、敷地内緑化を推進
- 雨水利用、太陽光発電設備を導入

## ⑤木のぬくもりのあるしつらえ

- 学生や教員、施設利用者にとって、魅力的な学びや活動の場となるよう、校舎棟の「交流スペース」や、図書交流・食堂売店棟の「ラーニングコモンズ」、「図書館」などに、効果的に県産木材を使用

## ⑥その他

- 各施設を「キャンパスモール」(屋根付き通路)でつなぎ、雨天でも濡れることなくコンパクトに移動が可能
- 夏場における授業や実験・実習、課外活動等のため、体育館や実習工場・実験室棟にもエアコンを設置  
(体育館は、災害発生時の避難所利用も想定し、電源独立型のガス空調を設置)

### 3. 各施設の概要

※外観イメージは基本設計段階での参考画像です。今後の実施設計により、色合いを含め、変更が生じる可能性があります。



校舎棟 外観イメージ



校舎棟 「交流スペース」イメージ

#### ◆校舎棟

○学生や教職員が集い、語らい、共創を育む場、研究発表やプレゼンの場、校舎棟の象徴的な場として、中央に吹き抜けの「交流スペース」を配置

○専門的に情報技術に関する授業を行うための「演習室」を多数配置（全コースで利用）

○学生のゼミ活動や教員の研究活動での利用を想定し、普通教室や特別教室に加え、多目的に利用できる「多目的ラボ」や「多目的室」を複数配置

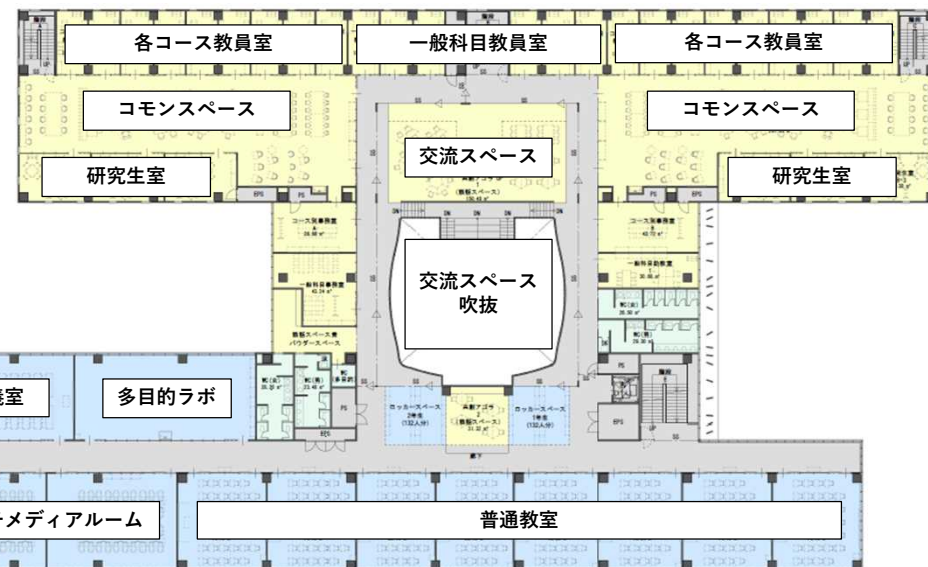
○学生や教職員が気兼ねなく着替えられるよう、それぞれの「更衣室」を完備



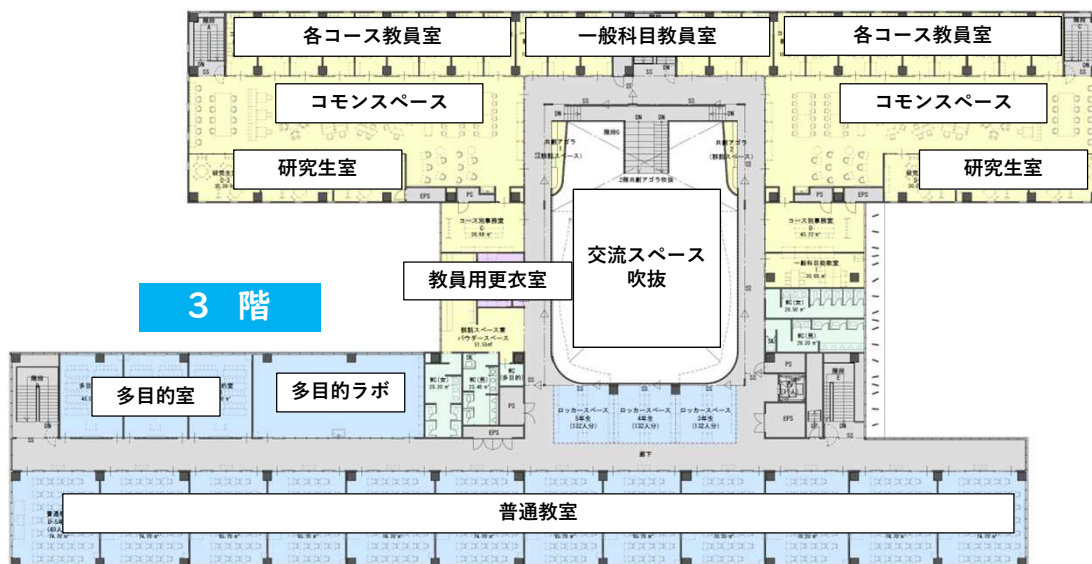
## ◆校舎棟

○コースごとに、談話やグループワークが可能な「COMMONスペース」を「研究生室」と「教員室」の間に配置

2 階



3 階



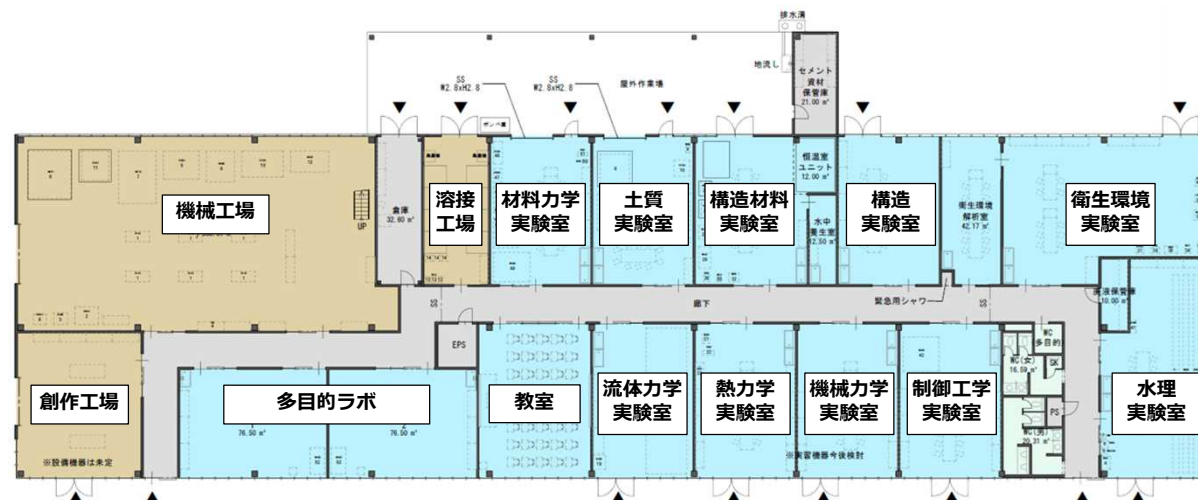
## ◆実習工場・実験室棟

○機械系分野、建設系分野を中心とした実習や実験が可能な「実験室」、「工場」を配置

○「創作工場」として、ロボコン等の多目的な創作活動等が可能なスペースを確保



実習工場・実験室棟 外観イメージ



# ◆図書交流・食堂売店棟 (企業や地域住民との交流の場として活用)

## 1 階：交流エリア

○食堂・売店を配置し、寮生を含む学生や教職員が食事をしながらにぎやかに過ごせる場を提供

○企業や地域との交流や共同活動ができるよう、グループワーク、研究、調査、発表等が行える諸室を配置

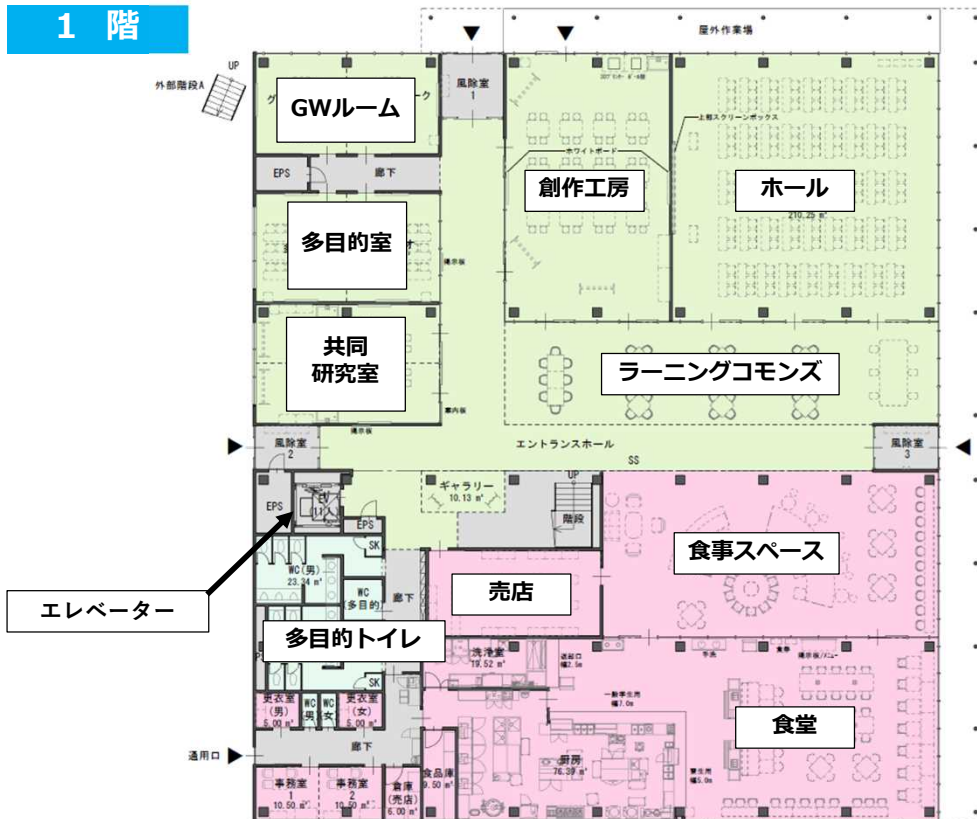
## 2 階：サイレントエリア

○「図書館」を配置（開架書庫 4 万冊規模を想定）

○「屋外テラス」を設け、三上山や野洲川を眺望しながら、思索にふける空間を提供



図書交流・食堂売店棟 外観イメージ



## ◆学生寮

○男女比の変動への対応や留学生の入居も想定し、ユニット型（個室6室で1ユニット）を導入

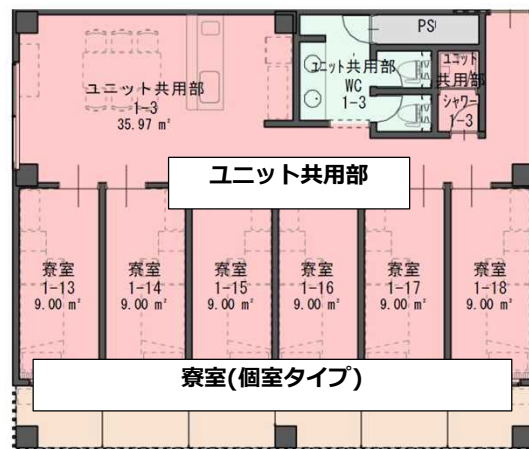
○1階に6室×4ユニット+身体障害者用個室2室、2階に6室×4ユニットで、計50室を用意

○ユニットごとにセキュリティを確保するとともに、ユニット共用部にキッチン、トイレ、シャワー等を配置

○1階中央に、寮生が集える場として、コミュニティキッチンを用意する「多目的ルーム」を配置

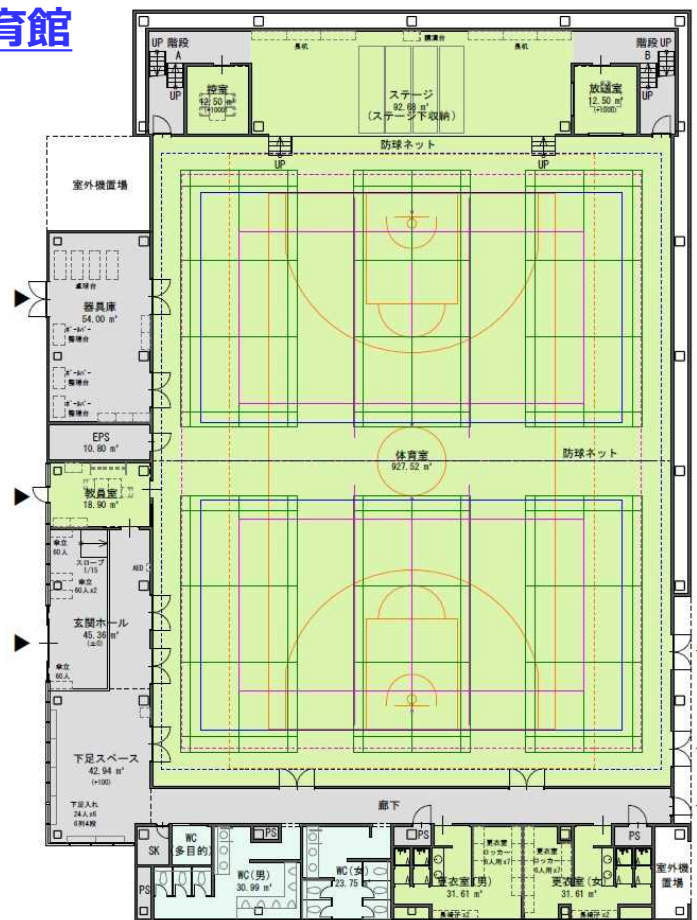
○男女別で同規模の「共同浴室」、「共同洗濯室」を配置

【ユニット拡大図】



体育館 外観イメージ

## ◆体育館



学生寮 外観イメージ



県立高専キャンパス 全景イメージ